

新たなごみ処理施設の 建設について

事業計画の概要

長野広域連合

長野広域連合の概要

連合を構成する市町村の概要

長野地域



構成 11市町村

人口 562,596人

世帯数 206,280世帯

面積 1,566.07km²

* 人口・世帯数は平成19年10月1日現在(長野県資料)

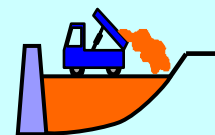
ごみ処理の広域化と施設整備計画

管内市町村から発生する可燃ごみを、広域的に適正に処理・処分することを目的として、次の施設を整備します。

- 焼却施設(1施設目)
施設規模: 450t/日程度
稼働目標: 平成26年度中
- ◆ 溶融設備
施設規模: 60t/日程度



- 最終処分場
埋立容量: 18万m³程度
埋立期間: 15年間程度
埋立物
 - ・溶融スラグのうち有効利用できなかったもの
 - ・溶融飛灰処理物
 - ・その他溶融不適物稼働目標: 焼却施設(1施設目)に合わせて稼働



- 焼却施設(2施設目)
施設規模: 100t/日程度
稼働目標: 平成26年度中
- ◆ 溶融機能あり



長野市
(合併前)

須坂市

高山村

千曲市

坂城町

Aごみ焼却施設候補地選定の経過

長野市ごみ焼却施設建設地検討委員会の設置

目的

長野広域連合が長野市内に建設するごみ焼却施設の建設候補地の選定

構成

幅広い見地から選定を行うために、市議会議員、団体代表者、学識経験者、公募委員の15名により構成

経過

平成16年5月から平成17年7月までの間、18回の検討委員会を開催し、8月に最終報告

長野市ごみ焼却施設建設地検討委員会の主な検討経過

建設候補地選定の基本的な考え方などを確認

法規制のある地域、山間部を除外

2ha以上の空地がある18候補エリアを選出

11の比較評価項目により、評価の高い5エリアに絞り込む

5エリア内の11カ所の空地を建設候補対象地とする

11カ所の空地を15の比較評価項目により順位付け

現地踏査などを勘案し、2カ所の建設候補地を選定

余熱を利用した還元施設のあり方について検討

検討委員会で選定した2ヶ所の候補地



- 最も優位と判断した候補地
大豆島松岡二丁目 (3.6ha)
(サンマリーンながのおよびその周辺部)

- 優位と判断した候補地
芹田川合新田 (2.6ha)
(旧南部浄化センターおよびその周辺部)



長野市での建設候補地の選定

項目		検討結果
検討委員会の検討結果		「サンマリーン周辺」 が最も優位
評価項目	搬出入ルート	「サンマリーン周辺」が優位
	現清掃センターとの連携 (市民の利便性、業務の 効率性)	「サンマリーン周辺」が優位



庁内の選定結果

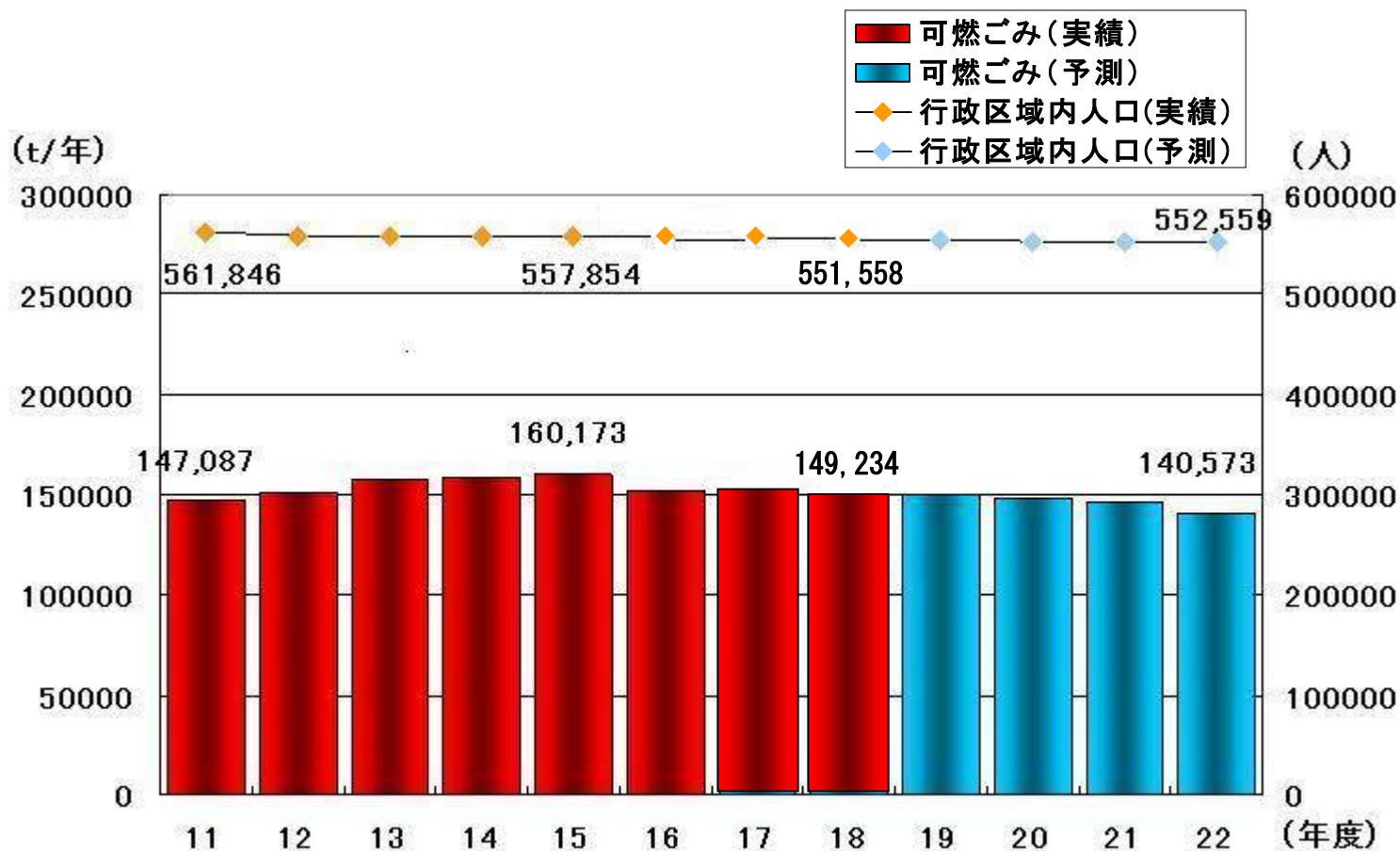
建設候補地: 大豆島松岡二丁目

ごみ焼却施設建設候補地



大豆島松岡二丁目 (サンマリンながのおよびその周辺)

可燃ごみ量の推移と減量目標



平成15年度実績に対する平成22年度のごみ減量目標

家庭系可燃ごみ

10%削減

事業系可燃ごみ

15%削減

焼却施設の現況と計画

現況

長野市清掃センター
450トン/日

須坂市清掃センター
50トン/日

葛尾組合焼却施設
80トン/日

北部衛生クリーンセンター
30トン/日

合計**610**トン/日

計画

■焼却A施設(1施設目)

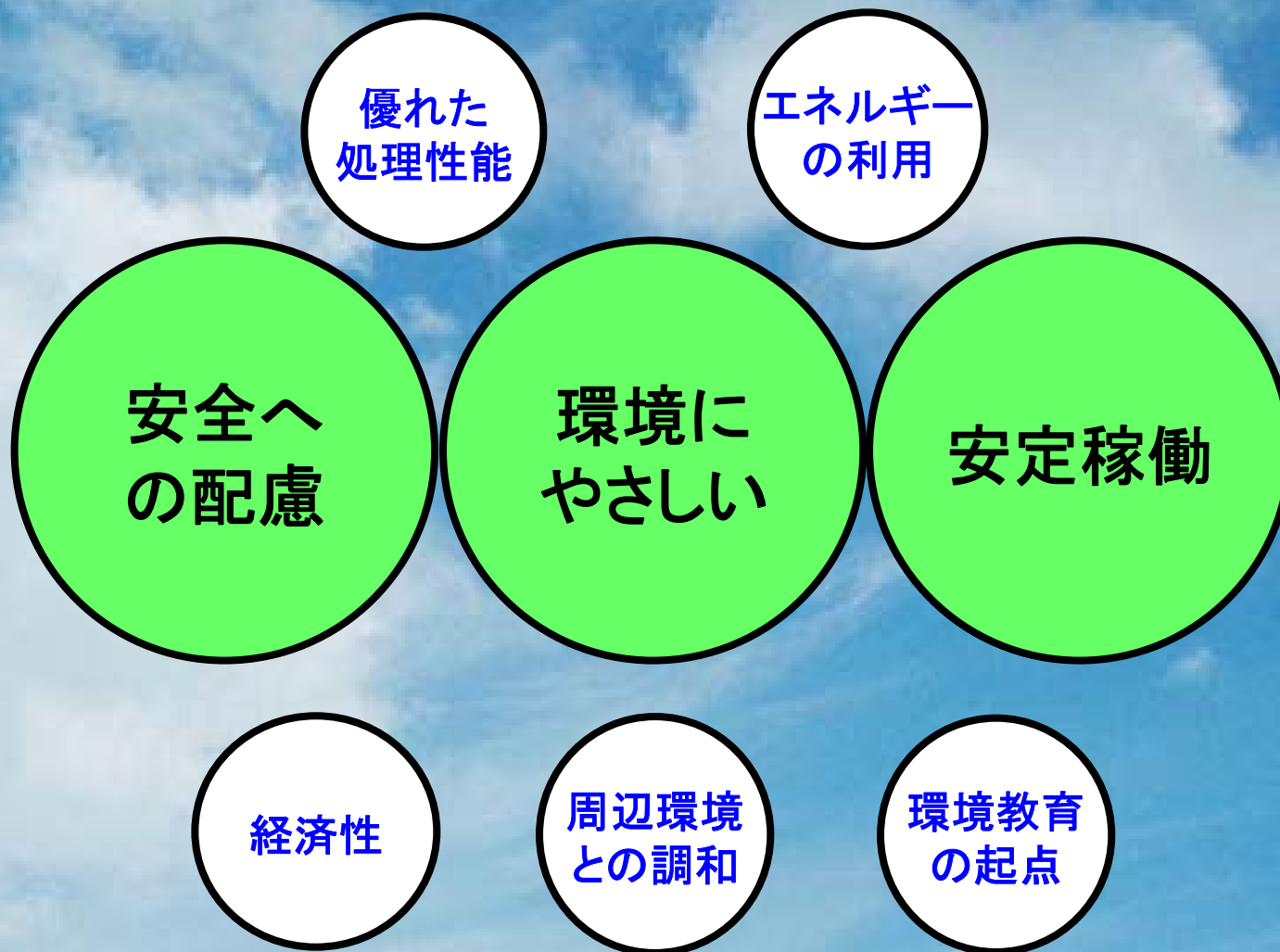
施設規模:450トン/日

■焼却B施設(2施設目)

施設規模:100トン/日

合計**550**トン/日

施設建設・運営に関する基本的な考え方



長野広域連合ごみ処理施設建設及び管理運営計画策定委員会 中間提言

環境にやさしい施設

地球環境を守るために、ダイオキシン類をはじめとする有害物質について、公害防止基準の遵守はもちろん、さらなる低減を図ります。
また、周辺環境に配慮した臭気対策を行います。

ダイオキシン類対策

焼却炉

燃焼温度を850℃以上で、安定した燃焼を行い、ダイオキシン類の発生を抑制

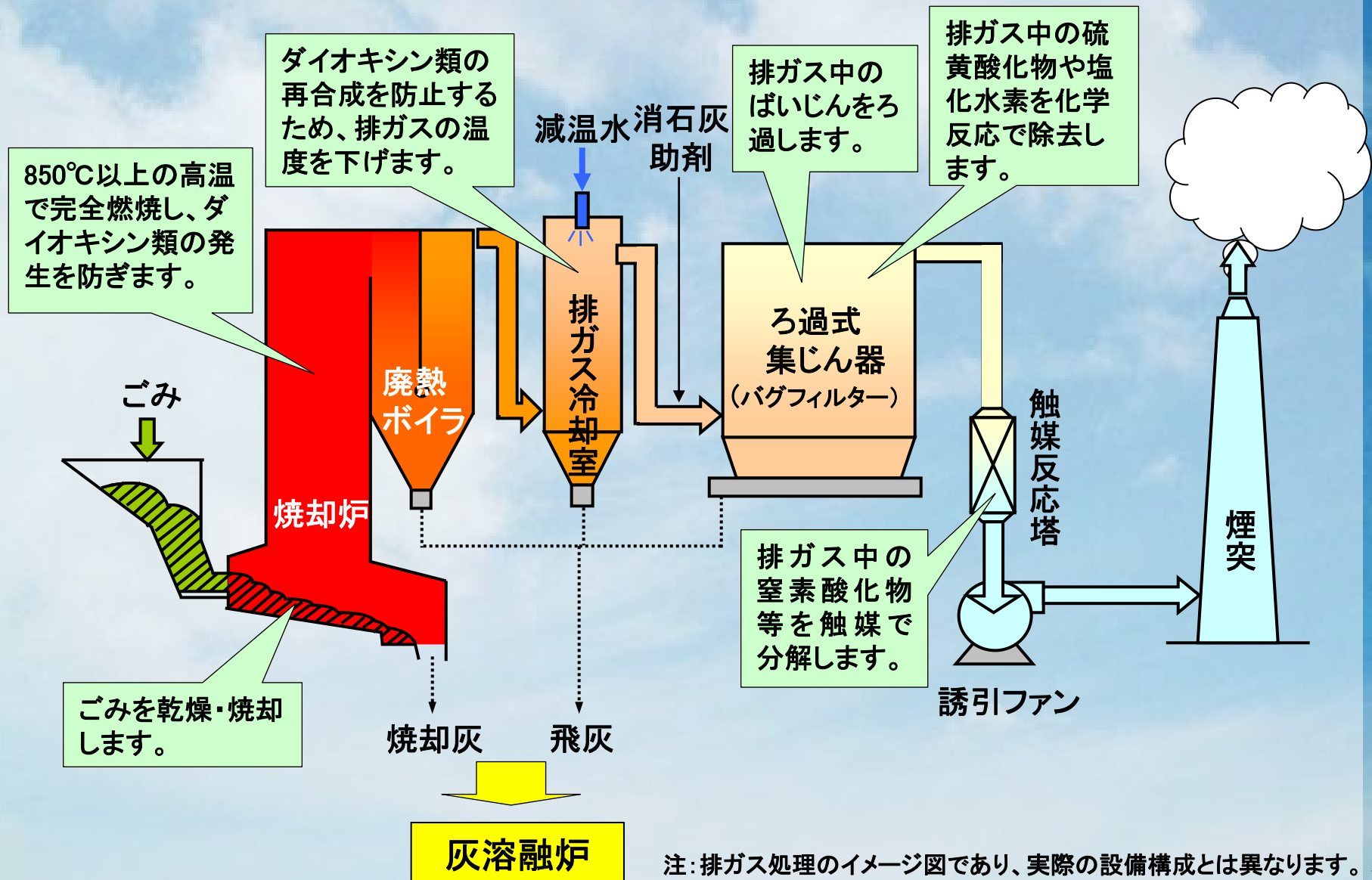
ろ過式集じん器

排ガスを急速に冷却させてダイオキシン類の再合成を抑制し、ダイオキシン類を含んだばいじんを、バグフィルターにより効率よく捕集・除去

灰溶融炉

灰を1,300℃以上の高温で溶融し、灰に含まれるダイオキシン類をほぼ完全に分解

環境にやさしい施設（排ガス処理）



注：排ガス処理のイメージ図であり、実際の設備構成とは異なります。

安全に配慮した施設

周辺住民が安心して生活できる事故のない安全な施設とする。また、地震等の自然災害に強く労働災害にも配慮した施設とする。

事故のない安全な施設を目指して

施設面

最新のプラント制御技術の導入により、事故を未然に防ぐため、きめ細かな安全管理システムを構築します。

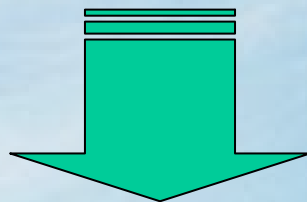
管理面

危機管理マニュアルの作成、職員の教育訓練の徹底を図るなど、危機管理体制を整備します。

安定した稼働ができる施設

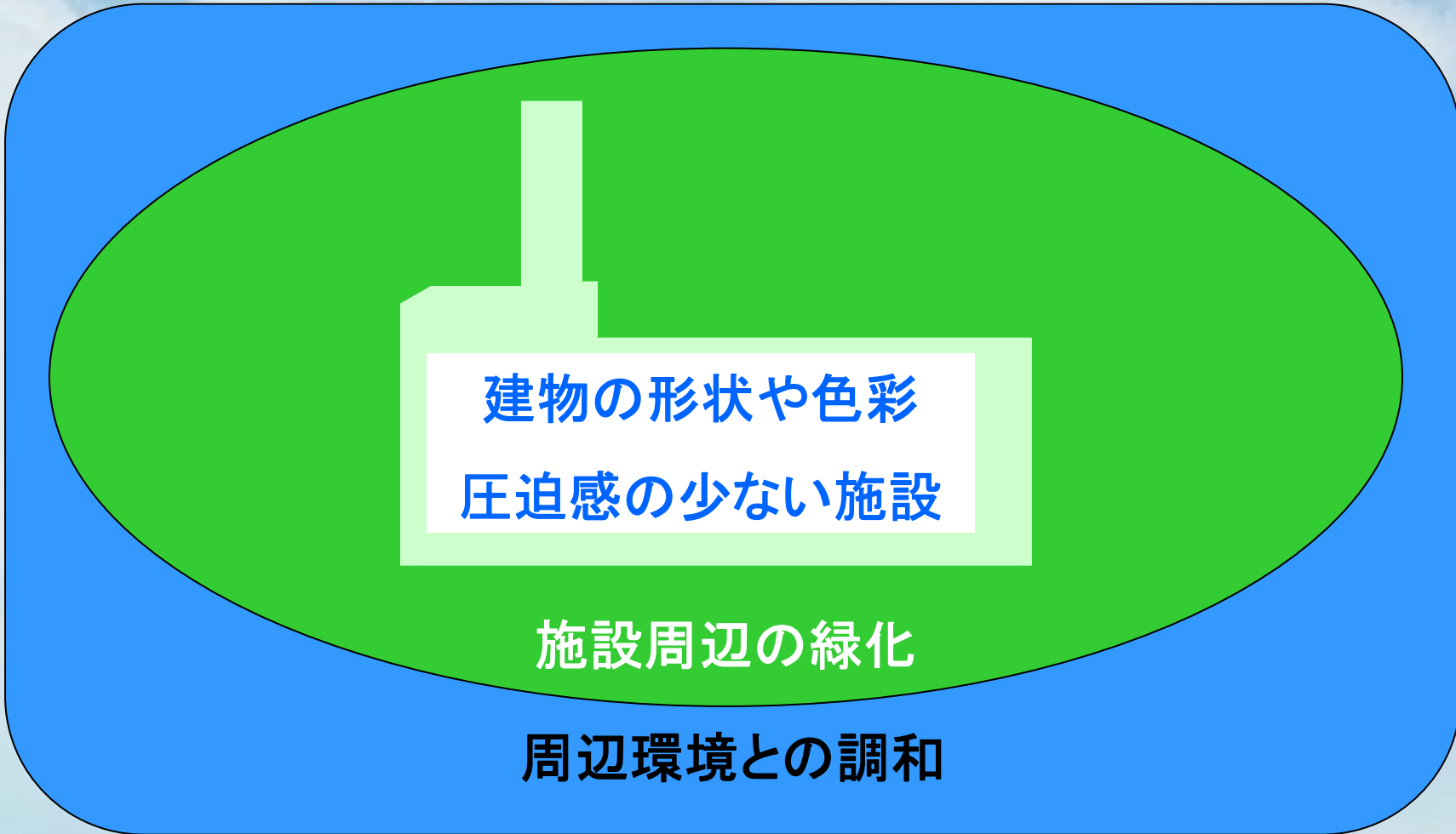
維持管理が容易で、耐久性に優れ、トラブルなく連続運転できる施設

ごみを安定かつ確実に処理し、広範なごみ質やごみ量の変動に柔軟に対応できる施設



ストーカ式焼却＋灰溶融

周辺環境と調和する施設



建物の形状や色彩
圧迫感の少ない施設

施設周辺の緑化

周辺環境との調和

事業の実施予定

- 建設工事の工期：平成23年度から平成26年度
- 供用開始 : 平成26年度中

事業実施工程表

年度 調査・計画項目	20	21	22	23	24	25	26	27	28	
環境影響評価	■				■			■		
都市計画決定			■							
建設工事				■						
供用開始							■			

施設計画概要

主要設備方式等	処理方式	ストーカ式焼却＋電気式灰溶融
	受入供給設備	ピット・アンド・クレーン方式
	施設規模	焼却施設 450 t/日 (150 t / 24 h×3基) 灰溶融施設 約60t/日
	燃焼ガス冷却設備	廃熱ボイラ、減温塔
	排ガス処理設備	有害ガス除去装置、ろ過式集じん器、触媒反応塔
	給水設備	上水、地下水
	排水処理設備	生活排水；直接下水道放流 洗車系排水；生物処理後下水道放流 プラント排水；凝集沈殿、ろ過処理後再利用
	余熱利用設備	蒸気タービン発電、給湯設備等
	灰出し設備	ピット・アンド・クレーン方式
	煙突の高さ	80 m (既設長野市清掃センターを基準に設定)

対象事業実施区域



大豆島松岡二丁目 (サンマリーンながのおよびその周辺)

予備調査範囲



環境影響評価の基本方針

基本方針

- ・積極的に情報を公開する環境影響評価
- ・地域の意見を十分に反映した環境影響評価
- ・地域の特性に配慮した環境影響評価

具体的な提案

- ・現地調査の見学会を開催
- ・スケジュールや調査結果を常時確認できる場所の設置
- ・定期的な調査報告会の開催
- ・ホームページ等で情報を公開
- ・地元の皆様との意見交換会や説明会の実施

環境影響評価に係る経過

日付	経過の内容
平成17年	
11月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・長野市が、建設候補地を「大豆島松岡二丁目（サンマリーンながのおよびその周辺部）」と選定 ・長野市長が、大豆島区区長会及び松岡区へ建設の依頼
平成19年	
1月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・大豆島地区区長会及び松岡区へ環境影響評価実施の申入れ
平成20年	
2月4日	<ul style="list-style-type: none"> ・松岡区長から環境影響評価実施について了承した旨の回答書受理
2月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・大豆島地区環境影響評価説明会（大豆島公民館）
5月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・大豆島区長会長から環境影響評価実施について了承した旨の回答書受理
7月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・「長野広域連合Aごみ焼却施設建設事業に係る環境影響評価方法書（素案）概要版」を大豆島地区全世帯に配付 ・「長野広域連合Aごみ焼却施設建設事業に係る環境影響評価方法書（素案）原本」の掲示（7月31日まで）長野広域連合、長野市環境第一課、大豆島支所
7月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・松岡区で環境影響評価方法書（案）説明会を開催（松岡区公民館）
7月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・大豆島地区で環境影響評価方法書（案）説明会を開催（大豆島公民館）
7月1日～ 7月31日	<ul style="list-style-type: none"> ・環境影響評価方法書（案）について大豆島地区対象に意見募集
9月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・地元意見募集を踏まえ方法書（案）を修正した。また、「意見募集の結果について」を作成し大豆島地区全世帯に配付
10月29日	<p>「長野広域連合Aごみ焼却施設建設事業に係る環境影響評価方法書」を長野県と長野市に提出した</p>